

Newsletter No. 13

Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel: 03-5620-1953 Fax: 03-5620-1960

E-mail: max-service@onebridge.co.jp

新理事長挨拶



日本顎顔面補綴学会

理事長 石上友彦

平成23年1月より歴史ある本学会の理事長を拝命いたしました。先人たちの築いてきた顎顔面補綴治療の知見を、我々の専門性を必要とする患者さんのために広報すると共に、学会をあげて研鑽していくたいと考えております。本学会における第2世代目の小生は本学会において先輩方に多くの指導を受けてまいりました。指導の多くは本学会の特色である多職種による連携、討論等による学際的な学会活動でした。近年、口腔外科領域からの指導が以前より寂しくなっておりましたが、本学会においては必須の領域であり、第3、4世代目のためにも積極的な更なる活動を期待しております。今後は学会活性化のためにも、各施設への啓発も含め会則を検討しながら法人化を進め、学会活動に責任のある一般社団法人を目指し社会に貢献していくたいと考えています。

また現在、顎顔面補綴領域における大きな問題として以前よりエピテーゼ材料の主軸である海外のシリコーン材の使用が薬事法により困難になっており、積

極的な診療体制がとれない状態でした。そこで、医療委員会が中心となり、学会主導により各会員施設の協力の下、国産のシリコーン材の開発を急ぎ、患者さんのために一日も早い商品化を望んでおります。

本学会の専門性を社会に周知させていくためにも、認定医制度の充実が必要ですが、昨年7月に暫定期間も終わり、新たに認定審査委員会が発足しました。多岐にわたる専門性を基盤とする学際的分野である本学会では、認定言語聴覚士、認定歯科衛生士、認定歯科技工士の制度も発足しています。先般、本学会の歯科補綴と口腔外科の専門医により作成された顎顔面補綴診療ガイドラインを基に、学際連携委員会が各認定士と共にチームアプローチによる診療ガイドラインにも着手し、全ては患者さんのために、を合言葉に活動を続けていきたいと思います。

理事紹介

石上友彦(理事長)、大木秀郎、尾澤昌悟、小野高裕、久保吉廣、熊倉勇美、後藤昌昭、佐々木啓一、塩入重彰、下郷和雄、関谷秀樹、田中貴信、舘村卓、谷口尚、野口誠、秀島雅之(会計担当理事)、鰐見進一(副理事長)、松山美和、山森徹雄

庶務担当幹事:大山哲生

委員会挨拶

編集用語委員会



委員長：山森徹雄

委員：井原功一郎，尾澤昌悟，久保吉廣，佐渡忠司，隅田由香，武部純，舘村卓，松山美和

この度、久保吉廣先生から編集委員長を引き継ぐとともに、前期からの継続として用語検討を併せて担当させていただくことになりました。学会誌の編集作業は用語検討活動と深く関わるため、同一の委員会で対応することで効率化、徹底化を図るという、石上友彦理事長のお考えに基づく委員会設定と伺っております。とはいえ、いずれの委員会も今期で2期目と若輩の委員長であるため、久保前委員長にご意見番としてお残りいただいたのを始め、経験豊かな先生方に委員をお願い致しました。

学会誌は、学会員はもとより、それ以外の歯科医師に対しても専門学会としての考え方を提示する重要なツールです。また現在、学会が進めていく法人化が実現すれば、国民に対する広報、啓蒙活動のため学会誌の役割も広がることでしょう。このような時期に本委員会を担当することの責任の重さを感じております。委員各位のお力を借りし、またこれまでの編集委員会で構築されてきた編集作業の進め方を財産として踏襲しながら、活動を進めたいと考えております。しかし誌面の充実を図るためにには、何よりも会員各位による論文投稿が大切となります。是非、活発なご投稿をお願いいたします。

また用語検討関連としては、前期に引き続いで現在の用語解説集の改訂を進めてまいります。こちらにつきましても、会員各位のお知恵をお借りしてまとめてゆく必要があります。ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

国際交流委員会

委員長：尾澤昌悟



委員：菅井敏郎，武部純，谷口尚，松山美和，向山仁

昨年度に引き続き、国際交流委員長を務めることとなりました。

委員会の主要な仕事として、国際顎顔面リハビリテーション学会（ISMR）との連携があります。当学会は ISMR の団体会員として登録しており、会員の皆様にも関連する国際学会のご案内等が届いていることだと思います。その ISMR に関するニュースは、昨年度に大幅な役員交代があり、カナダ、エドモントンの Wolfaardt 教授を中心とした新たな執行部による新体制が発足致しました。ISMR では今後更なる発展を目指して、新会員の獲得や発展途上国への情報提供、技術指導を行うという方針を打ち出しています。本学会からは、新たに石上理事長が理事に就任されています。2年に一度の学術大会は、来年秋にアメリカ東部の都市、ボルチモアでの開催が予定されています。

この分野での国際交流は、これまで欧米が中心でしたが、これからは発展著しい中国や韓国との交流も、重要になると認識しています。同国には本学会のような独立した組織はまだ存在しないようですが、補綴や口腔外科の一分野として、関連学会や個人レベルの交流から始めていきたいと考えています。また、海外からの患者の問い合わせや照会がありましたら、是非国際交流委員会を窓口としてご利用ください。

医療委員会



委員長：谷口 尚

委 員：大木明子，隅田由香，常國剛史，山口能正，吉岡 文
幹 事：乙丸貴史

前任の松浦正朗委員長から引き継ぎまして、今期、医療委員会を担当させていただくことになりました。メンバーは上記の方々です。

今期の医療委員会の主な業務は、先進医療「顎顔面補綴」において使用するエピテーゼ材料の新たな開発で、本学会ならびに生産・販売業者との連携のもと、薬事申請に向けた行政に関わるプロセス等も含めた包括的開発作業を進めてまいります。この実現のためには、秩序をもった作業進行が求められ、本学会関係施設、関係者、関連企業等の有機的・積極的取組が必須です。

会員の皆様からもご意見をいただき、ご意見を反映させながら進めてまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

広報委員会



委員長：松山美和

委 員：関谷秀樹，堀一浩，中島純子，山口能正

前任の小野高裕委員長から引き継ぎまして、今期、広報委員会を担当させていただくことになりました。私は2005, 2006年に広報委員の経験はありますが、委員長として担当するのは初めてになります。しかし、山口先生は前2期4年間の広報委員の、堀先生は2007, 2008年の広報委員会幹事の経験があり、関谷先生、中島先生はさまざまな方面での実績をお持ちのため、心強く思っております。会議

はメール会議中心ですが、チームワークの良さでカバーできると考えております。

さて、広報委員会のおもな業務はホームページの管理とニュースレターの発行です。ニュースレターについては、本号が13号となり、会員の皆様への情報提供ツールとして定着しています。今期もこれまでを踏襲し、情報提供を行っていきたいと考えております。

また、ホームページに関しましては、会員のみでなく広く一般の人々に情報提供する場であるために、適切かつ正確な情報提供を目指します。これまでに更新を重ねてブラッシュアップされ、有用な情報が満載です。今期も年に数回の更新を予定しており、英語版、リンク先、一般の皆様のページなどを、引き続き、充実させていきたいと思います。

会員のみなさまからいただいたご意見は広報委員会で検討し、理事会の承認を得た上で、ホームページに掲載することになります。みなさまからのご意見ご要望をお待ちしております。

学術委員会



委員長：小野高裕

委 員：熊倉勇美，小山重人，隅田由香，関谷秀樹，月村直樹
幹 事：城下尚子

当委員会は、学術大会時の教育研修会と優秀論文賞の選考を担当しています。教育研修会は今年で早くも17回目を数えすっかり本学会の名物になりましたが、回を重ねたからと言ってマンネリに陥らず、「顎顔面補綴の領域にとって何が大事か」という観点の下に、テーマをアップデートしていきたいと思います。もちろん顎顔面補綴の治療技術を継承することは常に重要ですが、治療のエビデンスを高めるためにどうすればよいか、隣接医学領域との接点を高めるにはどうすればよいか、等について考えていくべき時期に来ているような気がする… そうしたことは優秀論文賞の選考においても考慮されるべきではないか… 等々、1月にスタートした今期

委員会では元気のある若手委員の先生方にどんどん発言していただきながら活発に議論しております。今後、積極的な提案を学会内でしていきたいと考えておりますので、どうか会員の皆さまからもご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

認定医制度検討委員会



委員長：鰐見進一

委 員：佐々木啓一、
皆木省吾、古賀千尋、
槙原絵理

2007年7月20日か

ら施行された認定医制度は、2010年7月19日をもって暫定処置期間が終了し、現在まで122名の認定医が誕生している。今年度からは、正規の認定医制度規則に則り行われることとなるため、認定審議会との連携を図りながら遅滞なく運営できるよう努力する所存である。また、2012年12月30日に最初の認定医の更新時期となるため、本年度は更新手続きで多忙になると思われる。すべての認定医が更新されることを祈念している。一方、2010年7月1日より日本顎顔面補綴学会認定歯科衛生士、日本顎顔面補綴学会認定歯科技工士、日本顎顔面補綴学会認定言語聴覚士の各認定士制度が発足して以来、数名の認定士が誕生している。2015年6月30日までの暫定期間に本学会認定の認定士の増加が期待される。

法人化委員会



委員長：館村 卓

委 員：尾澤昌悟、柴田考典、谷口 尚、山森徹雄

今年度も法人化委員会を担当させていただくことになりました。今期の

委員は、尾澤昌悟、谷口 尚、山森徹雄各先生に加えて、日本顎関節学会の一般社団法人化に手腕を振るわれた柴田考典先生にも加わっていただきました。

現在、2年後の一般社団法人化を目標にした作業を、会則検討委員会とともにすすめていますが、既に有限責任中間法人を経て一般社団法人となった他の学会とは異なり、法人化の作業は困難を極めることを予想しております。会計年度の変更、総会開催時期の変更、代議員制の採用等々、機関設計自体を大きく変更する必要があり、これらの作業を行う上でのWGを構成いたしました。WGにて作成した案を、現在の理事会、評議員会、総会にて討議していただいた上でご承認を頂く段階を踏むため、ゆっくりとした作業進行にならざるを得ません。

会員の皆様にはご理解とご協力を賜りたいと思っております。

法人化準備委員会も準備が終り名称も法人化委員会と改めさせて頂きました。

ガイドライン作成委員会



委員長：小野高裕

委 員：尾澤昌悟、久保吉廣、小山重人、塩入重彰、津江文武、月村直樹、中島純子、野口信宏、山森徹雄

新しくできた委員会です。この起りは、平成20年度日本歯科医学会プロジェクト研究『わが国における顎顔面補綴治療の現状分析と診療ガイドラインの作成』が日本補綴歯科学会と日本口腔外科学会の共同申請により採択され、両学会からの委託を受けて、日本顎顔面補綴学会が顎顔面補綴に関するわが国における実態調査と診療ガイドラインの作成を行うことになったことでした。後藤前理事長の下で10名のワーキンググループメンバーが参考して「顎顔面補綴診療ガイドライ

ン」の作成を担当し、慣れない作業の中で悪戦苦闘しながら、何とかガイドライン 2009 年版をまとめることができました。本来診療ガイドラインは生き物であり、臨床データの蓄積や新しい治療法の開発などを受けて常にアップデートされいくべきものと定義づけられています。我々 WG メンバーは 2 年間の作業を終えてしまい脱力・放心いたしておりましたが、石上理事長の命によって常置委員会に昇格させていただき、現状からブラッシュアップを行って MINDS (医療情報サービス) への収載を目指すという使命を与えられました。これより再び覚醒し、顎顔面補綴領域の医療における堅固な位置づけと今後の臨床エビデンス確立の指標としてのガイドライン作りにまい進したいと考えております。どうか会員の皆様のご支援・ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

学際連携委員会



委員長：久保吉廣

委 員：熊倉勇美、山口能正、瀬戸純子

学際連携委員会は日本顎顔面補綴学会の活性化、起爆剤として石上理事長から私に立ち上げるようにご指示がありました。会員数の停滞、本学会の閉塞感を打破するために関連学会と連携を密にして、学会員の治療の質の向上、患者様の QOL の向上を目指してゆきたいと考えております。

委員として言語聴覚士学会所属の熊倉勇美先生、歯科衛生士学会所属の瀬戸純子先生、歯科技工士学会所属の山口能正先生にお願いしました。

連携を密にするため本学会が認定する認定医制度のほか、新たに認定言語聴覚士制度、認定歯科衛生士制度、認定歯科技工士制度の 3 つが制定されています。詳細は本学会誌 33 号 2 号の巻末に掲載されていますのでご参照下さい。本年 5 月末現在、認定医 122 名；歯科衛生士 2 名；歯科技工士 2 名が登録されています。

会員皆様からのご意見・ご要望も受け付けたいと思っております。

会則検討委員会



委員長：塩入重彰

委 員：館村 卓、大畠昇、尾澤昌悟、柴田孝典、谷口 尚、山森徹雄

引き続き会則検討委員長を仰せつかりました。いよいよ本学会の法人化準備が本格化しております。当委員会の主目的が法人化に伴う会則の大幅な改訂を念頭に置かれて設置されましたので、法人化準備委員会を核として、それに、法人化にも造詣の深い大畠 昇先生（北海道大学）と委員長の私が加わった構成となっています。

構成メンバーは上記の通りです。

特命委員会



委員長：後藤昌昭

委 員：石上友彦、小野高裕、久保吉廣、塩入重彰、谷口 尚

本年 1 月より石上理事長のもとで、特命委員会委員長を仰せつかりました。本委員会の目的は明確ではありませんが、時々に本学会が遭遇する問題、特に外的問題について協議し、関連委員会や理事会に答申するものと理解しております。

法人化、認定制度、高度先進医療、未承認材料など本学会が抱える問題を関連委員会と共に連携、調整を行いながら、対応していかねばならないと思っております。

会員の皆様におかれましては、本学会に関連する様々な問題を提起していただきたいと思います。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

平成 22 年度優秀論文賞受賞者の声

松山美和

徳島大学大学院



『舌可動部亜全摘症例に対するリハビリテーションとその治療効果 一下顎歯槽堤形成手術と最大舌圧の経時的变化』
(顎顔面補綴 33 卷 1 号)

この度は、平成 22 年度優秀論文賞をいただきまして、誠にありがとうございました。本学会からいただく初めての賞なのでうれしい限りです

今期、広報委員会を担当しているため、ニュースレター 13 号の記事を検討するにあたり、論文賞受賞者の決定を心待ちにしておりましたが、まさか自分がそれとは思いもしませんでした。他の学会にある応募形式とは異なり、本学会は掲載の全論文を対象とするために、著者本人が知らないまま審査が進行し、連絡がきて初めて受賞を知るため、大きな驚きになります。

本論文は舌亜全摘手術後の補綴治療の治療効果を報告した研究論文で、その要旨は第 26 回学術大会（2009 年、四日市市）で発表いたしました。研究論文で受賞できることも、私には意外でした。

舌亜全摘手術後の顎顔面補綴治療は、再建舌の可動能力が乏しく、また十分なデンチャースペースがとれず、困難なことが多いです。しかしながら、二次的形成手術を行うべきか否か、どちらの機能回復がよいか、患者にとってどちらが望ましいかなど、非常に悩むところでした。私はこの症例を経験するまでは二次的手術には否定的でした。しかし、この症例の結果により私の考え方は変わりました。

たった 1 例の報告ですが、このような意味で臨床的意義がある論文と認めていただいたのではないかと思っています。症例報告といえども、ひとつひとつ丁寧に科学的データを示して報告することが大切だと、改めて考えております。

本当にありがとうございました。

関連学会報告

Dysphagia Research Society 19th Annual Meeting 報告

2011 年 3 月 3 日から 3 日間にわたり、USA, San Antonio にて Dysphagia Research Society 19th Annual Meeting が開催されました。本学会は摂食・嚥下リハビリテーションをメイントピックとした唯一の国際大会です。本大会には各国および各職種・分野から約 350 名の参加者が集い、非常に活発な討議がなされました。本分野の特徴でもあるのですが、摂食・嚥下リハビリテーションに関わる女性の参加者が非常に多く、会場も非常に華やかな空気に満ちていました。発表内容は、嚥下のメカニズムを基礎的な解剖学および生理学的視点から追及する研究、様々な疾患における嚥下障害の臨床データなど多岐に及びました。その中で、口腔腫瘍患者の嚥下障害に関しては、嚥下透視検査による嚥下障害の程度と患者自身の障害に対する認識との違いを調べたものや、術後嚥下障害における基本的な治療方法の確立を目指すもの、IMRT が術後障害の関係等の成果発表があつただけでなく、前日の Post-Graduate Course では頭頸部腫瘍術後の嚥下障害をメインテーマとして行われるなど、頭頸部腫瘍に起因した嚥下障害に対する関心の高さが伺われました。一方、海外では言語聴覚士が摂食・嚥下リハビリテーションに携わることから、歯科医師のほとんどが日本人であり、補綴装置を用いたリハビリテーションに関する報告はほとんどありませんでした。そのような報告を本邦から

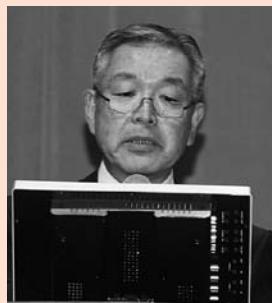


発信していくべきは注目されるのではないかとも感じました。次回の大会は2012年3月にカナダのトロントで行われる予定です。

(広報委員:堀 一浩)

(社)日本補綴歯科学会第120回記念学術大会

さる5月20日(金)~22日(日)の3日間、広島市の広島国際会議場にて(社)日本補綴歯科学会第120回記念学術大会が開催され、大会最終日の午後、『補綴歯科専門医に必要な顎顔面補綴治療』というテーマで専門医研修会が行われました。「補綴歯科専門医が習得すべき基本的要點を、日本顎顔面補綴学会認定医の立場から教育する。」という趣旨から、本学会の後藤昌昭前理事長と石上友彦現理事長のお二方がご講演されました。



後藤先生は「口腔外科医の立場から望む知識と技術」と題して、顎義歯やエピテーゼについて長期症例を供覧しながら、補綴歯科と口腔外科の協力の重要性を強調されました。

した。さらにガイドラインもご教示いただき、展望として、現状の問題点を示した後に5つの項目を明示されました。

石上先生は「顎顔面補綴科医の立場から望む知識と技術」と題して、症例を供覧しながら、基本的知識や技術から、患者とのコミュニケーションについてまでご教示されました。補綴の専門性をもって医療連携を行うことを強調されました。

この研修会を機に顎顔面補綴に興味を持ち、本学会への関心が高まり、入会者が増えることを期待致します。

(広報委員長:松山美和)



関連学会の案内

●第23回日本嚥下障害臨床研究会

日 程: 7月9日(土)~10日(日)

大会長: 武内和弘

会 場: テアトロシェルネ(尾道市)

問合せ: 〒723-0053 三原市学園町1-1

県立広島大コミュニケーション障害学

TEL: 0848-60-1120 / FAX: 0848-60-1134

●第52回日本歯科医療管理学会総会・学術大会

日 程: 7月9日(土)~10日(日)

大会長: 平田幸夫

会 場: 神奈川県歯科医師会館

問合せ: 〒238-8580 横須賀市稻岡町82

神歯大 社会歯科学講座歯科医療社会学

TEL: 046-825-1500

●日本顎関節学会総会・学術大会

(第2回アジア顎関節学会大会併催)

日 程: 7月23日(土)~24日(日)

大会長: 丹根一夫

会 場: 広島県民文化センター

問合せ: 〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

広大・大学院・医歯薬顎口腔頸部医科

学講座歯科矯正学

TEL: 082-257-5686 / FAX: 082-257-5687

●第41回日本口腔インプラント学会学術大会

(第32回日本口腔インプラント学会中部支部学術大会併催)

日 程: 9月16日(金)~9月18日(日)

大会長: 堀田康記

会 場: 名古屋国際会議場

問合せ: 〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100

愛院大・歯 高齢者歯科学講座インプラント科

TEL: 052-751-2561

●第33回歯科技工学会学術大会

日 程: 10月1日(土)~10月2日(日)

大会長: 三浦宏之

会 場: タワーホール船堀

問合せ: 〒336-0061 さいたま市浦和区常盤3-1-1

埼玉県歯科技工士会

Newsletter No. 13

Maxillofacial Prosthetics

TEL : 048-835-7610 / FAX : 048-835-7611

●第70回日本矯正歯科学会

日 程: 10月17日(月) ~ 10月20日(木)

大会長: 後藤滋巳

会 場: 名古屋国際会議場

問合せ: 〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-12

NBF赤坂山王スクエアインターナルグループ

TEL : 03-5549-6913 / FAX : 03-5549-3201

●第56回日本口腔外科学会

日 程: 10月21日(金) ~ 10月23日(日)

大会長: 古郷幹彦

会 場: グランキューブ大阪

問合せ: 〒565-0871 吹田市山田丘1-8

阪大・大学院・歯 顎口腔病因病態制

御学口腔外科学第一

TEL : 06-6879-5111

●第22回日本咀嚼学会学術大会

日 程: 10月29日(土) ~ 10月30日(日)

大会長: 田中貴信

会 場: ウインクあいち

問合せ: 〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11

愛院大・歯 有床義歯講座

TEL : 052-759-2152 / FAX : 052-759-2152

●第13回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会

日 程: 10月29日(土)

大会長: 山口能正

会 場: 佐賀大学医学部 臨床大講堂2F

問合せ: 〒841-0038 佐賀県鳥栖市古野町176-8

九州医療専門学校 技工士科

中牟田雅律(実行委員長)

TEL : 0942-83-0682 / FAX : 0942-82-2918

E-mail : nakamuta@kyufuku.net

大会テーマ:『発想力の開発』

【参加申し込み方法】

日本口腔顎顔面技工研究会のホームページから、学術大会案内を開いて、「参加申し込み」に必要事項を記入の上、事務局までFAXまたはE-mailにて受付致します。

※ 日本口腔顎顔面技工研究会ホームページ

<http://www.hosp.itami.hyogo.jp/gakuganmen.reha.tec/index.html>

コンテンツ

新理事長挨拶	1
理事紹介	1
委員会挨拶	2
平成22年度優秀論文賞受賞者の声	6
関連学会報告	6
関連学会のご案内	7

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 松山美和

委 員 関谷秀樹, 堀 一浩, 中島純子

山口能正

TEL : 088-633-9213, FAX : 088-633-7898

E-mail : miwa@dent.tokushima-u.ac.jp

〒770-8504 徳島市蔵本町3-18-15

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部